現在技術の発展が非常に速く、私は新しい技術に興味を持っています

辞職と出国手続きには約 2 か月かかります,ですので、約 3 か月以内に入社可能です

--好き

私は日本は中国よりも発展しており、文明的だと思います

今回は日本の企業に限定(げんてい)して考えており、日本独特(どくとく)の精緻(せいち)な仕事スタイルや技術への重要性(じゅうようせい)を大変好(たいへんこの)ましく思っています。また、日本の教育にも魅力(みりょく)を感じており、娘にも日本で学校に通ってもらいたいと考えています。

前職で日本からの同僚(どうりょう)と協力した経験もあり、彼らの仕事ぶりや技能に感心(かんしん)しました。なので、日本で日本の方と働きたいと思います。

日本と中国は異なる文明の発展段階(だんかい)にあります。私見(けん)ですが、中国の方が少し荒々(あらあら)しい印象(いんしょう)を受けます。

## 自己 PR

この分野の経験はほとんどありません。企業のお客様にソリューションを提供する

去年、私は GitHub で自分で作ったプロジェクトを共有しました。このプロジェクトは簡単に言えば日本の株式市場のデータを分析し、いくつかのパターンに基づいて初期のスクリーニングを行い、これらの強力な株式の中からより深いスクリーニングを行うことを容易にします。フロントエンド技術は Typescript(Vue3) を使用します

バックグラウンド技術は PHP (Laravel) を使用します。データ収集/分析技術は Python/Golang を使用します

私の強みは主体的に行動できることです。

人人网で働いていた時に、sns no database 保障したことがあります

Web サイトには 2000 以上のデータベースインスタンスがあり、それらは近 1000 台の Linux サーバーで実行されています。

私の仕事は、データベースの移行、最適化、バックアップ、故障対応などです。

Zabbix を使って数千のデータベースインスタンスを監視し、監視項目がしきい値を超えると自動的にアラートが発生します。

私は MHA をベースにした二次開発により、MySQL クラスターの故障時に自動切り替えを実現しました。

今東軟グループで働きます、ブロックチェーン関連プロダクトの開発の担当です

Hyperleger Fabric に基づくブロックチェーン運用および保守プラットフォームとブロックチェーン クロスチェーン プラットフォーム, 多くの企業や政府のクライアントにサービスを提供しています

多くの企業や政府にサービスを提供しています

今仕事は安定ですが、ちょうと達（た）成感がふそくしています。

キャリアアップが見えなくなったことです、職場で成長スピードを上げていきたいと思ったためです。

私にどのような業務内容を担当してもらえるでしょうか？

入社までに事前に勉強しておくべきことがあれば教えてください。

--プロジェクト

私が東软で開発したブロックチェーンアプリケーションプラットフォームは、Hyperledger Fabricをベースにした二次開発です。このプロジェクトでは、プラットフォーム全体の設計と開発を担当しました。このプラットフォームの難点(なんてん)は、ブロックチェーンのパフォーマンスを最適化し、ブロックチェーン技術を実際のビジネスシーンに適用する方法です。Hyperledger Fabricのソースコードを研究(けんきゅう)し、さまざまな機能を拡張(かくちょう)・最適化しました。例えば、さまざまな暗号化(あんごうか)アルゴリズムのサポート、さまざまな状態(じょうたい)データベースのサポート、さまざまなコンテナのサポート、スマートコントラクトの自動生成(せいせい)などです。

--教育

まず、中国と日本の教育内容、試験制度(せいど)、評価方法(ひょうかほうほう)にはいくつかの違いがあります。中国の教育システムは科目知識(かもくちしき)と試験対策(たいさく)能力に重点(じゅうてん)を置き、試験の成績(せいせき)が学生の選抜(せんばつ)や進学(しんがく)に重要な役割(やくわり)を果(は)たします。一方、日本の教育は学生の総合(そうごう)的な素養(そよう)、自主学習(じしゅがくしゅう)能力、創造(そうぞう)的思考(しこう)力の育成(いくせい)に重点を置いています。

次に、教授法(きょうじゅほう)も異なります。中国の教育では、教師(きょうし)は知識(ちしき)を教え込み、学生は多くの知識を記憶(きおく)して消化(しょうか)することを奨励(しょうれい)されます。これに対して、日本の教育は対話(たいわ)や参加を重視(じゅうし)します。教師は学生に考えさせ、質問させ、協力させることを奨励し、グループディスカッションや実践(じっせん)的な活動(かつどう)を通(つう)じて学生の創造的思考力と批判(ひはん)的思考力を育成(いくせい)します。

最後に、教育の価値観(かちかん)も異なります。中国の教育は学業の成果(せいか)と競争(きょうそう)を重視し、学生は通常(つうじょう)、大きな学業のプレッシャーにさらされます。一方、日本の教育は学生の品性(ひんせい)、社会(しゃかい)的責任感(せきにんかん)、市民意識(しみんいしき)の育成を重視します。日本の教育は個人(こじん)の修養(しゅうよう)と人間関係の発展を強調(きょうちょう)し、学生に自律(じりつ)心(こころ)と協調性(きょうちょうせい)を持たせることを奨励(しょうれい)します。

私の知識と経験に基づくと、私自身では両方(りょうほう)の教育制度(せいど)を客観(きゃくかん)的に評価(ひょうか)するのは難しいです。しかし、日本の教育制度は学生の総合(そうごう)的な素養(そよう)と創造的思考力(しこうりょく)の育成に重点を置いていると考えています。これは学生の個人(Kojin)的な成長と将来のキャリアに非常に有益(ゆうえき)です。

--leader

チームのリーダーとして、どのような業務に責任(せきにん)を持ちますか？

ソフトウェア開発チームのリーダーとして、通常は以下(いか)の業務に責任を持ちます：

プロジェクト管理：プロジェクトの計画(けいかく)、組織(そしき)、管理を担当します。プロジェクト計画の策定(さくてい)、マイルストーンの設定、タスクとリソースの割(わ)り当(あ)てなどを行い、プロジェクトのスケジュール遵守(じゅんしゅ)と品質基準(ひんしつきじゅん)の達成を確保(かくほ)します。

チームリーダーシップ：チームのメンバーに指導(しどう)とサポートを提供し、個人とチームの目標達成(もくひょうたっせい)に向けて彼らを活気(かっき)づけます。チームリーダーはチームワークを育成し、コミュニケーションと知識共有を促進(そくしん)する役割(やくわり)を果(は)たすべきです。

技術指導(しどう)：技術的な面では、チームリーダーは豊富(ほうふ)な技術経験と専門(せんもん)知識を持ち、チームメンバーに技術的なアドバイスとガイダンスを提供し、技術的な課題を解決(かいけつ)し、チームがベストプラクティスに基づいて開発を進(すす)めることを確実(かくじつ)にします。

人材(じんざい)管理：チームの人材管理を担当し、採用(さいよう)、トレーニング、パフォーマンス評価などを行います。チームリーダーはチームメンバーの能力と興味を理解し、業務を適切(てきせつ)に割(わ)り当(あ)て、必要なトレーニングや成長の機会(きかい)を提供する必要があります。

コミュニケーションと調整(ちょうせい)：チームリーダーは、チーム内外(うちそと)でのコミュニケーションと調整の役割(やくわり)を果(は)たします。他(た)のチーム、プロジェクトマネージャー、関係者(かんけいしゃ)と効果(こうか)的なコミュニケーションと調整を行い、情報(じょうほう)の流(なが)れとプロジェクトの進捗(しんちょく)を円滑(えんかつ)にする役割を果たします。

リスク管理：プロジェクト中のリスクと課題を特定(とくてい)し、適切(てきせつ)な対策(たいさく)を策定(さくてい)する責任(せきにん)があります。チームリーダーは問題を迅速(じんそく)に解決し、リスクがプロジェクトの進捗(しんちょく)や品質(ひんしつ)に与える影響(えいきょう)を軽減(けいげん)する必要があります。

品質(ひんしつ)管理：ソフトウェア開発プロセスにおける品質管理措置(そち)が適切(てきせつ)に実施(じっし)されることを確保(かくほ)します。コードレビュー、ユニットテスト、統合(とうごう)テストなどを含(ふく)みます。チームリーダーは、チームがベストプラクティスと標準(ひょうじゅん)に準拠(じゅんきょ)して高品質(こうひんしつ)なソフトウェア製品を提供することを確実(かくじつ)にします。

まとめると、チームリーダーはプロジェクト管理、チームリーダーシップ、技術指導(しどう)、人材(じんざい)管理など、さまざまな業務を担当します。彼らの責任は、チームの効率(こうりつ)的な運営(うんえい)、プロジェクトの成功(せいこう)への貢献(こうけん)、メンバーの成長と発展を促進(そくしん)することです。

--sql

私はSQLクエリの最適化に関する経験が豊富(ほうふ)であり、SQLクエリのパフォーマンス問題は通常(つうじょう)、以下(いか)の3つの問題によって引き起こされます。

インデックスの不適切(ふてきせつ)な使用またはインデックスの不使用。この種(しゅ)の問題は、SQLクエリの実行計画(けいかく)を確認(かくにん)することで解決策(かいけつさく)を見(み)つけることができます。

データテーブルのレコードが多(おお)すぎるか、あるフィールドの長さが大きすぎる場合(ばあい)、通常、データ量が1000万以上に達(たっ)すると性能(せいのう)の問題が発生(はっせい)しやすくなります。

--技術的な課題

プロジェクトで遭遇した技術的な課題と、その解決方法について説明します。

私が参加したブロックチェーンプラットフォームのプロジェクトで、パフォーマンスとスケーラビリティの観点(かんてん)から大規模(だいきぼ)なトランザクションの処理に関する技術的な課題に直面(ちょくめん)しました。

私たちのプロジェクトでは、大量(たいりょう)のトランザクションデータを処理し、システムがこれらのデータを効率(こうりつ)的に処理および保存(ほぞん)できることが求め(もとめ)られました。しかし、初期段階(だんかい)では、大規模なトランザクションの処理においてシステムのパフォーマンスが低下(ていか)し、期待(きたい)されるスループットの要件を満たす(みたす)ことができませんでした。

この問題を解決するために、私は以下の手順を踏(fu)みました：

パフォーマンス分析とチューニング：まず、システムのパフォーマンス分析を行い、ボトルネックを特定(とくてい)しました。Hyperledger Fabricのパフォーマンス分析ツールやモニタリングツールを使用し、システムの実行メトリックやパフォーマンスデータを収集し分析しました。分析結果(けっか)から、いくつかの重要なコンポーネントと操作(そうさ)がパフォーマンスのボトルネックであることを発見(Hakken)しました。

コードと設定(せってい)の最適化：パフォーマンス分析の結果に基づいて、コードを最適化し改善しました。チェーンコードのロジックと実装(じっそう)を検証(けんしょう)し、不要(ふよう)な計算(けいさん)やアクセス操作(そうさ)を可能な限り削減(かぎりさくげん)しました。また、ネットワークの設定とパラメーター設定を最適化し、システムのスループットと応答性能(おうとうせいのう)を向上(こうじょう)させました。

並行(へいこう)処理：システムのスケーラビリティと並行処理能力を向上(こうじょう)させるために、並行処理のメカニズムを導入(どうにゅう)しました。Hyperledger Fabricの並行実行モデルを利用し、適切(てきせつ)に設計された並列処理メカニズムを導入(どうにゅう)することで、システムリソースとマルチコア処理能力を最大限(さいだいげん)に活用(かつよう)しました。

ストレステストとパフォーマンスチューニング：改善の効果(こうか)を検証(けんしょう)するために、一連(いちれん)のストレステストとパフォーマンスチューニングを行いました。大規模なトランザクション負荷(ふか)をシミュレートするためのツールやフレームワークを使用し、システムのパフォーマンスをモニタリングしました。テストとチューニングの繰り返し(くりかえし)を通じて、システムのパフォーマンスとスケーラビリティを段階的に改善しました。

これらの手順(てじゅん)により、私たちはこの技術的な課題を成功裏(せいこうり)に解決し、システムの高いパフォーマンスとスケーラビリティを実現しました。私たちのシステムは大規模なトランザクションデータを処理し、期待(きたい)されるスループットの要件に達して(たっして)います。

この問題の解決にあたり、私はHyperledger Fabricのパフォーマンス特性(とくせい)と最適化戦略を深く研究(けんきゅう)し、パフォーマンス分析ツールやテストフレームワークを活用(かつよう)して問題解決(かいけつ)に取り組みました。コードの最適化、設定の調整(ちょうせい)、並行(へいこう)処理などの改善に注力(ちゅうりょく)し、システムのパフォーマンスとスケーラビリティを向上させる改善を行いました。この経験を通じて、私はHyperledger Fabricプロジェクトでの技術力と問題解決能力を向上(こうじょう)させました。

--communication

私が東软でサポートしたチームプロジェクトでは、チームメンバー間の(あいだの)コミュニケーションと協力に課題がありました。プロジェクトの規模(きぼ)が大きかったため、チームメンバーは異なる地理的(ちりてき)な場所(ばしょ)に分散(ぶんさん)していました。これがコミュニケーションと協力をより複雑にしました。

この問題を解決するために、私は以下の対策(Taisaku)を取りました：

コミュニケーションチャネルの最適化：チームメンバーがより多くのオンラインコラボレーションツールやコミュニケーションチャネルを使用するよう推進(すいしん)しました。例えば、チームチャットツール（Feishuなど）や共同編集(きょうどうへんしゅう)ツール（WPS Docsなど）です。これにより、チームメンバーは簡単にコミュニケーションし、ドキュメントを共有し、リアルタイムで協力することができ、コミュニケーションの効率(こうりつ)が向上(こうじょう)しました。

コミュニケーションプロセスの標準(ひょうじゅん)化：私は明確(めいかく)なコミュニケーションプロセスを確立(かくりつ)しました。定期(ていき)的なチームミーティングや進捗報告(しんちょくほうこく)、問題や意思決定(いしけってい)の追跡(ついせき)と記録(きろく)を含み(ふくみ)ます。これにより、チームメンバーはプロジェクトの進捗(しんちょく)や問題をタイムリーに把握(はあく)し、意思決定(いしけってい)に参加しフィードバックを提供することができます。

技術トレーニングとサポートの提供：私はチームメンバーの間に技術的なギャップが存在(そんざい)する可能性があることに気付き(きづき)ましたので、技術トレーニングや知識共有のセッションを組織(そしき)し、チームの技術力を向上(こうじょう)させました。また、チームメンバー同士(どうし)のサポートや協力を奨励(しょうれい)し、共に(ともに)技術的な課題を解決するよう努め(つとめ)ました。

チーム協力文化の促進(そくしん)：チームメンバー同士が積極(せっきょく)的な協力関係を築く(きずく)ことを奨励し、お互い(たがい)をサポートし尊重(そんちょう)するチーム文化を推進(すいしん)しました。チームビルディング活動(かつどう)やチームランチなどを組織(そしき)し、相互(そうご)の理解と信頼を深め、チームの結束(けっそく)力を高めました。

これらの対策により、チームメンバー間のコミュニケーションと協力が成功裏に改善されました。チームメンバーはより頻繁にコミュニケーションし、協力し、問題の解決速度と品質も向上しました。また、チームの雰囲気もより前向きになり、メンバー間の協力関係が強化されました。

この経験を通じて、チームプロジェクトにおけるコミュニケーションと協力の重要性を認識し、コミュニケーションチャネルの最適化、プロセスの標準化、サポートの提供、チーム協力文化の促進などの手法を通じてチーム協力の課題を解決する方法を学びました。

私は学習(がくしゅう)を始めて半年以上経ちましたが、聞くことと話すことにまだ少し差(さ)があるように感じます。だから毎日練習しています。時々敬語の使(つか)い方(かた)も正確(せいかく)ではなく、話し方が直接的(ちょくせつてき)になってしまうことがあります。

b)私は 2 回日本語能力試験に受けようと試み(こころみ)ましたが、中国では日本語能力試験の座席(ざせき)が非常(ひじょう)に競争(きょうそう)が激(はげ)しく、受付(うけつけ)が始まったばかりで早くも満席(まんせき)になり、私は 2 回とも受けることができませんでした。

--年収

北京を離(はな)れた時、私の年収はおおよそ 750 万円でした。その時、娘が生(う)まれたばかりで、妻は北京が好きではなかったので、私は沈陽に戻(もど)りました。

中国の沈陽は経済が非常に悪い都市なので、給料は大幅(おおはば)に下がっています

実際(じっさい)には、私自身も自分がいくらの給与を求(もと)めるべきかよくわかりません。東京の経済は北京よりもずっと良いと思いますし、物価(ぶっか)も高いです。だから、北京の購買力(こうばいりょく)を参考(さんこう)にして、私が望(のぞ)む給与は 700 万円です。ただ、実際には自分自身と家族の基本的な生活(せいかつ)を保証(ほしょう)したいだけです。

いくらの給与が適切(てきせつ)だと思われますか？

1 ヶ月の給与手取りはおおよそいくらになりますか？

月々(つきづき)、妻と子供の家計(かけい)を維持(いじ)するために約 20 万円必要です。

これらの残(のこ)ったお金では東京で生活(せいかつ)するには足(た)りませんか？

年収はどのような要素(ようそ)から構成(こうせい)されますか？

a)聞くことと話すことにまだ少し差(さ)があるように感じます。だから毎日練習しています。時々敬語の使(つか)い方(かた)も正確(せいかく)ではなく、話し方が直接的(ちょくせつてき)になってしまうことがあります。

b) 私は 2 回日本語能力試験に受けようと試み(こころみ)ましたが、中国では日本語能力試験の座席(ざせき)が非常(ひじょう)に競争(きょうそう)が激(はげ)しく、多くの人が争って(あらそって)います。受付(うけつけ)が始まったばかりで早くも満席(まんせき)になり、私は 2 回とも受けることができませんでした。

--

家族も私が日本の企業で働くことに賛成しています。妻は私のことを信頼(しんらい)してくれていますので、私も安心して自分の希望の道(みち)を進むことが出きます。御社への入社が叶(かな)えば、家族も幸(しあわ)せになるでしょう，私はずっと日本で働きたいし、娘には日本の学校に通わせたいと思っています。